

## 窒素原子隣接位から炭素骨格を伸ばす触媒反応

最近の研究成果の一つとして、有機合成化学教室（金井求教授）が発表した、空気中の酸素を取り込みながら温和な条件でアミンの窒素原子隣接位から炭素骨格を伸長していく触媒反応が挙げられる（図）

この反応は、銅と有機ラジカルのレドックス活性を共役させた触媒を用いており、不斉触媒反応への応用も可能であった。地球固有の環境要素である酸素

を反応の駆動力として、空気を吸いながら水を排出し、医薬分子としてよく見られるアミン類を触媒的かつクリーンに構造変換していける点で注目に値する。

この触媒反応をもとに将来的には、医薬品の概念的に新しい短工程合成ルート確立や天然に豊富に存在する化合物からの医薬活性分子への変換が可能になるものと期待される。

